

国際研修(コ05)

目的 近年日本の材料や道具が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業では海外において研修を主催、並びに文化財保存修復研究国際センター (ICCROM)、メキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関 (CNCPC-INAH) 等と研修を共催することで海外の修復関係者への技術移転を行う。

- 成果**
1. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops of the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」ベルリン国立博物館アジア美術館 (ベルリン、ドイツ)
 - ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2016 (平成28) 年7月6日～8日
参加者：15名 (イタリア、オーストリア、デンマーク、イギリス、ポーランド、ドイツ、スイス、フィンランド、オーストラリア)、その他オブザーバー2名
 - イ) 応用編「掛軸の修復」、2016 (平成28) 年7月11日～15日
参加者：9名 (スペイン、ドイツ、オーストリア、デンマーク、イギリス、イタリア、ドイツ、ポーランド)、その他オブザーバー2名
 2. ワークショップ「染織品の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Textile)」
 - ア) 協議及び研修の予行
国立台湾師範大学 (台北、台湾)、2016 (平成28) 年7月6日～8日、参加者：12名
 - イ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅰ「染織品の保存と展示」
東京国立博物館、2016 (平成28) 年6月10日、参加者：21名
 - ウ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅱ「染織品の展示と修復」
京都国立博物館、2017 (平成29) 年1月23日、参加者：18名
 3. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」
東京文化財研究所、京都市他、2016 (平成28) 年8月29日～9月16日
参加者：10名 (リトアニア、ポーランド、クロアチア、アイスランド、韓国、ニュージーランド、エジプト、スペイン、ベルギー、ブータン)
 4. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」CNCPC-INAH (メキシコシティ・メキシコ)、2016 (平成28) 年11月9日～25日
参加者：12名 (アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パラグアイ、ペルー)
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」ケルン市博物館東洋美術館 (ケルン、ドイツ)
 - ア) 応用編「漆工品の調査と保存・展示環境」、2016 (平成28) 年11月30日～12月3日
参加者：5名 (イタリア、オーストリア、オランダ、オーストラリア、ドイツ)
 - イ) 応用編「呂色上げと加飾技法」、2016 (平成28) 年12月6日～10日
参加者：4名 (ドイツ、アメリカ合衆国、ギリシャ、オーストリア)
 6. 招聘：国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」に係る技術移転及び研究
2016 (平成28) 年3月7日～6月29日、招聘人数：1名 (メキシコ)

刊行物・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」』東京文化財研究所 17.3ほか2件

研究組織 ○加藤雅人、小田桃子、元喜載、山之上理加、後藤里架 (以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子、嶋原由美、藤井佑果 (以上、保存科学研究センター)、菊池理予 (無形文化遺産部)、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨 (以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)